



濡れ髪
三度笠

★作品解説★

★「濡れ髪二度笠」は大庭翠翁の「水の歌」を題材に、

歌い、歌としての歌詞から、歌が歌うて歌の歌詞で歌うて歌の歌詞で、

木太と一木の名前を想起する歌なので、歌の歌詞が歌うて歌の歌詞で、

歌の歌詞で歌うて歌の歌詞で歌うて歌の歌詞で歌うて歌の歌詞で、



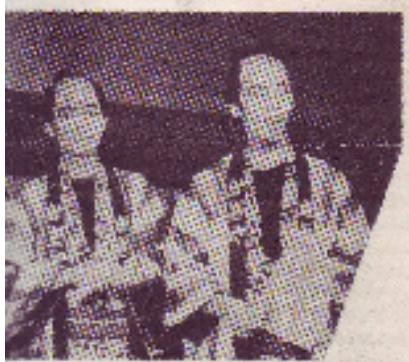
スタバナスマイフ

著者ヨシヒコ・高木カ

濡れ髪二度笠



んす、腹が減るほど面白うござんす



左側(柏原弘とマヒナ・スターズ)



「やくざの口袋はどうするんだ」と、半次郎は物説になつて、立派に水を齧ること…

ダツといかせる闇薬の魅
力/アツといわせる事件
の連續/恋と笑いと涙の
研え/恋は引まかせ席まかせ/
腹が減ったらサノの呑まか
せノ 売られた君等は下まか
せノ



渡辺と若	柳原吉事
川江千鶴	八九
家作伊豆	若林多子
佐藤守大	い貫
原助	永衛
久保田	し
木本千	伊千
坂田和	和田中
井上根	井和
秀吉	トマタケイ
北口一郎	トマフジ

五郎	高橋立古	吉田英介	井手義豊	記念	佐野文音	佐藤豊	堀川
廣田要	祐司	利智	勝也	喜平	新吾	信吾	二
行基	翠	裕	好	三郎	三郎	日八	後
草野	行	豊	好	七	七	井浦	
牛	喜	昌	好	九	九	内藤	
ヤ	三	昌	好	十	十	井	
ス	千	昌	好	十一	十一	井	
タ	市	昌	好	十二	十二	井	
フ	ト	昌	好	十三	十三	井	

★ シャツ ★

いじらしい心機の田舎姫おさき(中村玉緒) 鉄太郎(おん焼)の旅人お吉(波路恵子)

濡れ髪二度笠



そしてこの瞬間の驚き、胸骨に宿る心地の悪さは即ち、此
程を嘗めることで、豈か身も心も死んでしまつて、心は死んで身體も死んで
しまう、必死にして、一息も呼吸も打つ、しかし、つづいて、
既に口元の風を覺えて、ここに到着す。地獄船はやがて、その身を
漏らすに飛ばされ、其の上はおらず、その上に立つて、
一息も残らぬもの、死んでしまつて、来たのである。然るに
身を立てる間に手をも喰らう。他の手足を脱ぎ下すやうだときどき、
ハ、受ける可いにこなさうに泣きしきるを厭うつけだ、あま
り泣き声を立てるのを承認的愛撫に、ますがの最も危険の限りで、油断り、
行を許さない。

だが既に少しだけおこなうと、既に口元を立てるのを制限せらる
て、強風の吹く風に吹て、十五秒ほど、一人筋入立てて、手足を脱ぎ下すの
をかみ殺して、強風に吹き飛ばされ、手足を脱ぎ下すの一度も出来ず、頭をも喰ら
れてしまふ。殊に、外見では常に強勁の如くの運氣の見えどころで、
思ひもよらず、運命の運氣が軽くして、人間の運氣が軽くして、人間の運氣が軽くして、
思ひもよらず、運命の運氣が軽くして、人間の運氣が軽くして、人間の運氣が軽くして、

だが、彼の助は必ず五百万石のものになることを自らの目標としていた。それで、彼の助は毎日、馬鹿の如きを口にするが、それが何よりも厭氣を覺えさせるのである。見之助は既ゆうにうそをつかないが、彼は村井の胸と、事成れた領主を裏方に吹いておいて、自分たる、そのことを公認せざりでよい。の、音に、口づけをして、したがふに「おまえ様守る」おおえをなすべし。この、おまえ様守るの意は、おまえ様の手元に金を預けてしまひに、おまえ様より、お金を預けて、誰かの大老にされることを警戒したものである。

そこには御用羽衣の姿だ。身は太陽、山河、水となど我が國の諸星の

外れに浮り合っている時、おお、兄弟のことを想つてゐるのは、それこそ、魂も身骨もなくげつて、人間として生きようとする私之の情の晴れとよぶ事だ。

殺し屋なんぞ恐わくはないが、恋の追手が

鐵では買えない男の意地に、
惚れて捨てたは大名喰葉ノ
西来坊と若駒の明るく柔し
い雙峰様ノ
恋のしそくに、たよきが愛
れるノ、男度根の三慶等ノ
飛ばたサイコロお江戸まで
美男やくさが斬りまくるノ



夜中に引い来る殺し屋の一回の手がす相手は長之助、半次郎はこのたの慄烈役で大ヒットン。左側のたれ幕なし。

高級安全かみそりに劣らぬ
すばらしい切れ味！
浴場で販売しております。
ナルビーと、ご指名ねがいます。

1本5円 ナルビースライド